

防衛北海道

Bouei Hokkaido
December 2014
Hokkaido
Defense Bureau
Ministry of Defense



Vol.37

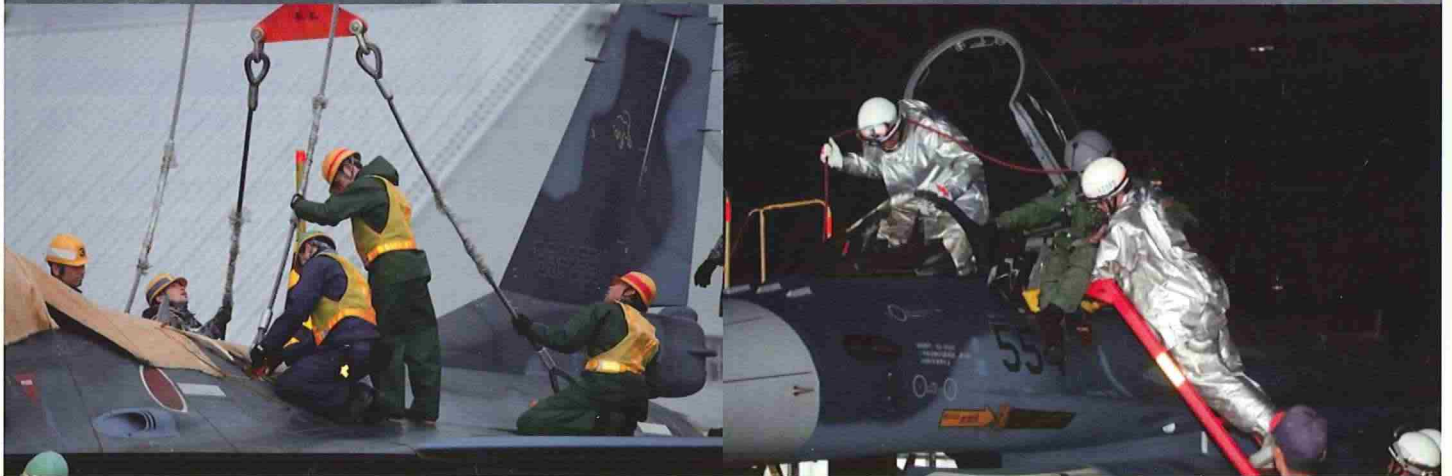


Photo : (上) 洞爺湖付近を飛行中のF-15
(下左) 慎重に航空機吊り上げ訓練を行う第2航空団隊員 (下右) 第2航空団隊員による搭乗員救出訓練
(写真提供 : 航空自衛隊千歳基地)

編集・発行 防衛省北海道防衛局 広報誌等編集委員会
札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎
Tel.011-272-7579
<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>

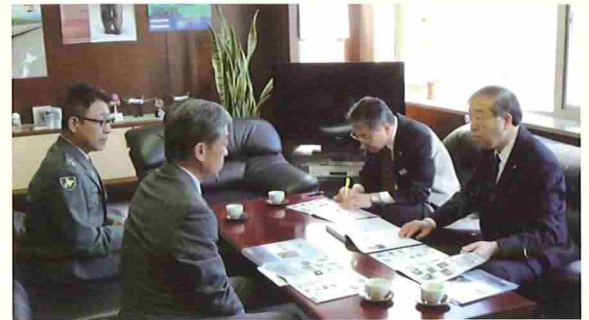


地方公共団体等に防衛白書を説明

北海道防衛局は、陸・海・空自衛隊及び自衛隊地方協力本部と連携し、道内地方公共団体（道及び市町村計195団体）や関係団体などに対し、平成26年版防衛白書の紹介及び概要の説明を行いました。

この防衛白書の説明は、わが国の防衛政策や防衛省・自衛隊の各種施策について、より多くの国民の皆様にご理解を深めていただくとともに、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図ることを目的としています。

当局としては、1人でも多くの方々に防衛白書に目を通していただけることを願っております。



杉田北海道防衛局長による防衛白書説明
(上段：荒川北海道副知事、下段：山口千歳市長)

白書は防衛省のウェブサイトでも閲覧できます

◆防衛省・自衛隊HP

http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2014/pc/2014/w2014_00.html



スマートフォン版
QRコード

◆スマートフォン版

<http://www.mod.go.jp/sp/j/publication/wp/wp2014/sp/index.html>

平成26年度入札談合防止に関する研修実施

10月27日及び11月17日に北海道防衛局、また、11月12日及び13日には帯広防衛支局において、全職員を対象とした「平成26年度入札談合防止に関する研修」を実施しました。

この研修は、入札談合等に関する不祥事の未然防止と法令遵守に係る職員の意識向上を図るため、全職員を対象に毎年実施しているもので、公正取引委員会事務総局北海道事務所の梶頼明氏を講師に招き、「独占禁止法と入札談合問題」と題して講義を受けました。

講義では、最初に独占禁止法の概要について説明があり、事業者は私的独占または不当な取引制限をしてはならないこと、また官側発注機関職員は、事業者の監視役であるとともに自らが入札談合の当事者になるリスクも抱えているという2つの立場を有していることを認識することが入札談合防止のポイントである旨の説明がありました。

また、官製談合防止法について説明があり、事業者が独占禁止法に違反する行為の中で官側が関与する行為には「談合の明示的な指示」等4つの類型が定められていることや、官製談合防止法の中には、官側発注機関職員が入札等の公正を害すべき行為を行った場合には刑罰が科される規定があることを、近年生じた入札談合の事例における処分等を例に説明があり、当局の発注業務を担当する職員に対し官製談合防止への意識の向上を促しました。



独占禁止法と入札談合問題について
説明を行う講師



研修を受講する当局職員

更に、入札談合防止研修に合わせて、総務部会計課から「平成22年度定期防衛監察の結果に基づく改善措置等に関する防衛大臣指示」や「平成25年度定期防衛監察の結果」における入札談合防止の取り組みとして「年度末の過度な予算執行」についての注意喚起を行うとともに、「調達経理業務に関する違反行為に係る懲戒処分等の基準」についての周知を図りました。

北海道防衛局では、今後も組織全体が入札談合行為に関与しないという意思を持ち続けるため、定期的に研修を実施し職員の更なる意識向上を図ることに努めていくこととしています。

日頃からの御理解・御協力に感謝します

防衛省・自衛隊の様々な活動は、国民一人一人、そして地方公共団体などの御理解と御協力が不可欠です。防衛省では、わが国の防衛に対する深い理解のもとに防衛省の業務・防衛施設の安定的な使用等に対し積極的な協力をされた方々や自衛官募集等に功績のあった方々などに感謝の意を表し、毎年、自衛隊記念日に感謝状を贈呈しています。

防衛大臣感謝状の贈呈

10月25日、グランドヒル市ヶ谷（東京都新宿区）において、平成26年度防衛大臣感謝状の贈呈式が行われました。防衛大臣感謝状は、防衛省・自衛隊の様々な活動への協力・援助や自衛官の募集等で功績のあった方々を表彰するもので、今年度は個人66名・70団体に、江渡防衛大臣から感謝状が贈呈されました。

北海道防衛局の業務に関わる防衛協力功労者として上野正三氏（北広島市長）に贈呈されました。



北海道防衛局長から感謝状を伝達



防衛大臣感謝状贈呈式の様子

北海道防衛局長感謝状の贈呈

北海道防衛局長感謝状は、当局業務の円滑な運営と防衛施設の安定的な使用に対し積極的な協力と多大な貢献をされた方々を表彰するもので、今年度は、木佐剛三氏（中富良野町長）、高橋定敏氏（留萌市長）、米沢則寿氏（帯広市長）に、杉田北海道防衛局長から感謝状を贈呈しました。



中富良野町長
木佐剛三氏



留萌市長
高橋定敏氏



帯広市長
米沢則寿氏

1月の防衛問題セミナーの御案内

北海道防衛局では、わが国の防衛に関する諸施策などについて、多くの方々に御理解を深めていただくことを目的に、下記のとおり防衛問題セミナーの開催を予定しています。

事前申込などの必要はなく、**入場無料**でご参加いただけますのでぜひ御来場下さい。

【第29回防衛問題セミナー】

in 札幌

- ◆開催日：平成27年1月29日（木）開場17：30 開演18：00
- ◆会場：札幌アспенホテル 2階 アスペンA
- ◆テーマ：安全保障を考える！～日本周辺海空域における動向とわが国の防衛～
- ◆講演者：①防衛研究所地域研究部北東アジア研究室 飯田将史 主任研究官（予定）
②海上自衛隊函館基地隊司令 尾島義貴 1等海佐（予定）

※ 詳細については後日ホームページにて掲載予定





既設構造物から学ぶ先人達の「ものづくり」 ～陸上自衛隊早来燃料支処の燃料施設等の建て替え工事～

Hayakawa 100% POL



先行完成した燃料施設等

早来分屯地に所在する北海道補給処早来燃料支処（早来燃料支処）は、燃料の出納、保管、補給及び整備に関することを任務としており、主に道南地区に所在する駐屯地等で使用する燃料を賄っています。

早来燃料支処では、これまで、昭和29年から30年までに建設された多数の鋼板製覆土式燃料タンク（鋼板の外周を鉄筋コンクリート構造物で保護した円柱型の貯蔵庫に覆土を施したタンク）を健全に維持・

管理し、安全に貯油してきましたが、平成16年の危険物の規制に関する政令の改正（消防危第77号）に伴い、昭和52年以前に建設された貯蔵量1,000KL以上の特定屋外貯蔵タンクが平成25年12月31日までに、500KL以上1,000KL未満の準特定屋外貯蔵タンクが平成29年3月31日までに使用できなくなるため、平成22年度から全ての燃料タンクを含む関連施設等の建て替え工事を実施しています。

この建て替え工事では、鋼板製覆土式燃料タンクの新設工事のほか、ドラム缶整備工場、燃料受払いスタンド、管理棟などの付帯施設の新設工事や既設燃料タンク、既設建物などの付帯施設の解体工事を行い、平成28年12月の完成を予定しています。

燃料補給等の部隊任務は不断が求められるため、使用中の既設燃料タンクが近接する中での工事となることから、工事中の安全対策等に万全を期すため胆振東部消防組合消防署と幾度となく調整を図り安全対策等の徹底と、東日本大震災による被災地の復旧・復興及び北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）建設工事の本格化により道内の職人や土木資材・機材等が不足しているなか、工事の遅延により部隊任務に支障を及ぼすことのないよう、北海道防衛局調達部と部隊関係者及び工事受注者間において頻りに綿密な工程管理を行い、事故・遅延のない工事の完遂に努めています。

今回の解体工事で、建設以来60年ぶりに、長きに渡り早来燃料支処の重要な部隊任務の一端を担ってきた燃料タンク本体の全容が現れました。この燃料タンクが建設された時代は、戦後復興期から高度経済成長期へ移り変わり始めた頃であり、道内でも資材や職人だけでなく工事用重機も不足していたなかでの施工であったにもかかわらず、とても半世紀以上経過しているとは思えない程しっかりとした重厚感のある外観と鋼板やコンクリートに顕著な劣化がない綺麗な内観からは、良好な品質が確保されていたことが見取られ、また、これまでの地震等による自然災害にも耐えるなど十分な安全性を保ち続けてきたことが分かります。

これは偏に、往時の自衛隊施設の建設等に携わった諸先輩※や施工受注者の方々の妥協しない丁寧な仕事と現地部隊の日頃からの徹底した維持・管理の賜であり、シンプルな構造物でありながら、当時の「ものづくり」への熱意が伝わってきます。解体される構造物からも学べるものがある先人達の技術力に感服しています。

北海道防衛局調達部は、先人達に劣らない技術力を身に付ける努力を惜しまず、これまでの現場経験等を生かし、より一層安全等に配慮して、工事を進めてまいります。また、工事期間中は早来分屯地及び地元自治体等と密接な調整等を行い、引き続き、近隣住民の皆様の御理解と御協力を得られるよう努力してまいります。

※北海道防衛局の前身である旧札幌防衛施設局は、昭和37年11月に旧調達庁（昭和27年4月発足）と旧防衛庁建設本部（昭和29年7月発足）が合併して発足しましたが、この既設燃料タンクの設計は、旧防衛庁建設本部が発足する以前の保安庁中央建設部（昭和27年10月発足）にて行われました。



燃料タンクを覆っていた土を除去する様子



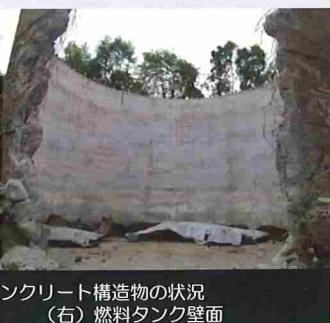
建設以来60年ぶりに現れた燃料タンクの全容（外部）



燃料タンク内部の鋼板等の状況
（左）天蓋を支える支柱 （右）曲面加工された鋼板



鋼板撤去後の鉄筋コンクリート構造物の状況
（左）燃料タンク床底面 （右）燃料タンク壁面



身近にある国有財産をご存じですか？

～地元住民のニーズに応えた周辺財産の有効活用～

北海道防衛局管理部施設管理課は、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律※に基づき、自衛隊等の航空機の離着陸等の頻繁な実施によって生じる音響に起因する障害が特に著しい区域（第二種区域）において、買入れた土地（通称「周辺財産」）を国有財産として管理しています。

航空自衛隊千歳基地周辺には、飛行場施設とその周辺に暮らす住民の生活空間との緩衝地帯としての役割を果たす約125ヘクタールの周辺財産があり、その多くを緑地帯として整備・管理しています。

当課職員は、この周辺財産及び隣接する民有地等の良好な環境を継続的に維持するため、周辺財産の見回りや周辺住民等からの様々な要望に対応するとともに、アウトソーシングによる「緑地帯として植栽した樹木の剪定や下刈」、「不法駐車等を防止するための車止め等の設置」、「不法使用や不法投棄等の防止のための巡視」、「隣接地への被害防止のための清掃、除草」を定期的を実施しています。

また、周辺財産は、防衛施設の運用に支障を生じるおそれがないなど一定の要件を満たす場合に限り、地方公共団体などに無償での利用が認められていることから、地方公共団体との連携の下、周辺住民等から歓迎される周辺財産の有効活用を進めています。

千歳市内には、この周辺財産を利用し自治体が整備した施設が多数あることをご存じでしょうか？

なかでも「アンカレジパーク」は18ホールを有するパークゴルフ場で、健康増進や憩いの場として各町内会や各種団体が主催する大会に利用されるなど、大変人気のある施設です。

また、「交通公園」は交通安全教育の場として整備された施設で、千歳市などが主催する交通安全フェアや幼児、児童らを対象とした交通安全教室が開催されており、千歳市によると、平成25年度の利用者数は15,000人を越えているそうです。

ほかにも、花壇、運動場、多目的公園、調整池など、さまざまな用途で利用されており、住民の皆様にも有効に活用されています。

当局は、今後も周辺財産の適切な管理を行い、環境維持に努めながら、地域に役立つ利用方法で積極的に有効活用を進め、地域の自治体、住民と良好な関係を築くことで、地域社会・国民と自衛隊相互の信頼をより一層深める一助となり、地域コミュニティの維持・活性化に貢献していきます。



※「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」

自衛隊等の行為又は防衛施設の設置若しくは運用により生ずる障害の防止等のため防衛施設周辺地域の生活環境等の整備について必要な措置を講ずるとともに、自衛隊の特定の行為により生ずる損失を補償ことにより、関係住民の生活の安定及び福祉の向上に寄与することを目的とする法律。

【周辺財産の利用例】





陸上自衛隊 北部方面隊

北部方面隊創隊62周年記念行事音楽まつり ～「躍動」～



「北部方面隊歌」北部方面音楽隊



第5音楽隊の演奏による第27普通科連隊のステージドリル



「若い瞳」第11音楽隊

北部方面隊（総監：田邊揮司良陸将）は10月18日（土）、北部方面隊創隊62周年記念行事の一環として、ニトリ文化ホールにおいて、北部方面音楽隊（真駒内駐屯地）、第2音楽隊（旭川駐屯地）、第5音楽隊（帯広駐屯地）、第7音楽隊（東千歳駐屯地）、第11音楽隊（真駒内駐屯地）の他、駐屯地の和太鼓チームの北海自衛太鼓（幌別駐屯地）、北鎮太鼓（旭川駐屯地）が参加し、北部方面隊音楽まつりが行われました。

今年のテーマを「躍動」として、プログラムを全3章に区分し、それぞれに趣向を凝らした多彩な演出、演奏により、2回の公演で約3,700名の来場者を魅了しました。

オープニングから始まった演奏では、厳粛な雰囲気の中での国歌斉唱に引き続き、ファンシードリルと一体となった音楽演奏や、音楽隊と太鼓チームとの合同演奏、各音楽隊のテーマ演奏、北海自衛太鼓と北鎮太鼓の重厚な和太鼓の競演、各音楽隊から選抜された隊員「ビッグバンド」による軽快なジャズの競演、全音楽隊の合同演奏等、今年のテーマ通り、「躍動感」ある演奏が続きました。



和太鼓と吹奏楽の競演
第2音楽隊と第2師団の太鼓チーム



「ミンスレルリング」第7音楽隊



「インザムード」ビッグバンド



「力動」北海自衛太鼓・北鎮太鼓



多くの来場者を魅了した感動のフィナーレ

第3章のクライマックスにおいては、自衛隊発足と同時期（60年前）に誕生した映画「ゴジラ」から「ゴジラファンタジー」、日本文化の発信としてアニメ「千と千尋の神隠しメドレー」、変わらぬ友情を誓う「海を越えた握手」、世界平和を願う「ウィアー・ザ・ワールド」を参加した全隊員が演奏に合わせて合唱し会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

海上自衛隊 函館基地隊 イベントで掃海艇、大人気！



函館基地隊（司令：尾島義貴1等海佐）は、9月21日（日）、函館市港町ふ頭で開催された函館私立幼稚園PTA連合会主催の「第3回はたらく車大集合！くるま大好き！みんな集まれ！」に第45掃海隊の掃海艇「ながしま」を派出し一般公開を実施しました。

同行事は、昨年に続く開催で、今回は37の団体・機関が参加しパトカーや消防車、陸上自衛隊の装甲車など105台が展示されました。

その中でも会場の岸壁に接岸した「ながしま」はひと際目立っており、その一般公開では親子連れなど狭い掃海艇の甲板上は人で溢れ、イベント開始から終了まで順番待ちの行列が途切れることなく2,000名を越す見学者が訪れ、イベントを一層盛り上げるものとなりました。

主催者側からは、来年度も是非、海上自衛隊の艦艇に参加していただき、イベントを盛り上げてもらいたいとの依頼がありました。

尾島司令は「今後も市民が実施する活動に積極的に参加し、地域の方々に海上自衛隊をより一層理解して頂く」としています。



函館市港町ふ頭に接岸する掃海艇「ながしま」

航空自衛隊 奥尻分屯基地 ～第29警戒隊の紹介～



航空自衛隊奥尻島分屯基地が所在する奥尻島は、北海道南西部に位置し、東方には奥尻海峡、西方には日本海があり、夕方以降には漁火が海一面に広がる島です。

フェリーで来島の際は、島のシンボル「なべつる岩」が出迎えます。

ウニ、アワビなどの海産物を始め、ワイナリー独自で醸造された奥尻ワイン、奥尻米、奥尻牛などが特産品となっております。

奥尻島分屯基地は、昭和27年に米空軍の江差、留萌のレーダーサイトが部隊改編によって、奥尻島で一番標高が高い「神威山」の山頂（標高585m）に移動してきたことに始まり、昭和35年米軍より航空自衛隊へ移管され、北海道では唯一、離島に防空監視所を置く分屯基地（レーダーサイト）が設置されました。その後、幾度かの改編を経て、現在の北部航空警戒管制団第29警戒隊が編成されました。

当隊は、レーダーにより主に領空に接近する航空機等を探知するため24時間365日警戒監視を行っております。

隊員は奥尻島の3大祭である、賽の河原祭（ソフトボール大会）、室津祭（ハッピー渡り、海上宝探し）及びなべつる祭（綱引き大会）に積極的に参加しています。

また、毎年5月1日に行われる奥尻「島びらき」支援、今年初めて開催された奥尻ムーンライトマラソン支援、また、准曹会主催による海浜清掃ボランティア等により地域社会に貢献しています。



奥尻島のシンボル「なべつる岩」



奥尻島准曹会による清掃ボランティア



第29警戒隊一隊舎地区

北海道内の防衛施設

防衛施設歴史散歩

～第5旅団帯広駐屯地史料館を巡る～



帯広駐屯地



史料館の外観

第5旅団帯広駐屯地史料館は、北海道道東管内の防衛警備、災害派遣等を担う第5旅団司令部が所在する帯広駐屯地内にあります。当館は、多くの先人の苦勞と功績を伝え、隊員の情操教育の場として活用するため「道東史料館」として昭和41年3月に仮開館、同年8月から一般公開を行いました。平成6年3月の師団から旅団への改編に伴い、来館者のターゲットを「隊員」から「一般の方々」に大きく転換し、第5師団・駐屯地の伝統、歴史、活動状況について御理解が深まるよう、展示品の見やすさを

を考慮した陳列棚や内装の改修、展示品の充実化を図るため国際貢献資料等の追加を行い、名称も「帯広駐屯地史料館」に改め、心機一転して開館しました。

館内に入ってまず目に付くのは、旧陸軍、海軍、屯田兵の軍服等の展示です。

旧陸軍、海軍の軍服や帽子などは、司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」のドラマの中で阿部寛が演じた騎兵隊を指揮する秋山好古（よしふる）や、本木雅弘が演じた連合艦隊参謀の秋山真之（さねゆき）らが活躍した明治時代をほうふつする趣があります。それ以外にも、昭和7年開催のロサンゼルスオリンピックの馬術競技で金メダル取得により日本の国威を大いに高め、その後、陸軍軍馬補充部十勝支部で勤務された西 竹一大佐（バロン 西）ゆかりの資料、大戦で日本軍の劣勢が続くなか本土決戦に向け、当時の鯉登（こいと）旧第七（しち）師団長による本土決戦時の腹案である、道東地域における旧第七師団の部隊配置計画図、平成5年のカンボジア派遣からハイチ人道支援までの国際貢献資料、東日本大震災での自衛官の災害派遣活動資料等、数多くの貴重な資料が展示されています。

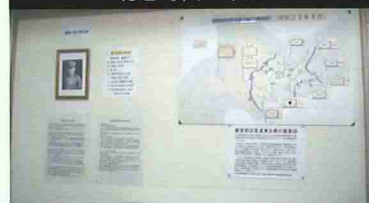
平成24年度における来館者数は1,030名でしたが、更に多くの方々に来館いただくため今年7月から、展示品を見学するための順路の整備や展示品の表示等の見直しを行い、9月13日の駐屯地記念日にリニューアルオープンしました。

駐屯地業務隊司令職務室からは、「帯広駐屯地は、地域とともにある駐屯地として歩んでおり、史料館についても引続き内容を拡充していく予定ですので是非一度来館いただきたい。」とのコメントが寄せられています。

※資料館への見学申込みは、
帯広駐屯地駐屯地業務隊司令職務室：電話0155-48-5121（内2301）



明治時代の軍服



本土決戦時の腹案



国際貢献資料

防衛施設所在の首長さんからのメッセージ



帯広市
米沢則寿 市長

帯広市は、広大な十勝平野の中心に位置し、農業を基幹産業とする人口約17万人の都市です。十勝の開拓は、本州からの民間の開拓移民により進められ、鉄道の開通により帯広は十勝の農産物の集散地、商業の中心地として発展してきました。

現在十勝は、国内有数の食料供給基地として、農林漁業や食産業、環境、エネルギーを柱にした成長戦略「フードバレーとたち」を地域づくり政策として、帯広市をはじめ管内町村が一丸となって、オール十勝での取り組みを進めています。また、帯広市では、世界で唯一の「ばんえい競馬」を毎週3日間開催しており、体重が1 t以上にもなるばん馬の大迫力のレースを間近で見ることができ、競馬ファンだけでなく、多くの観光客を魅了しています。

帯広駐屯地は、昭和15年の旧陸軍飛行隊の駐留に始まり、戦後昭和26年の警察予備隊発足により創設されました。十勝飛行場（旧帯広空港）を有する駐屯地の面積は263万㎡、全国で5番目（道内で2番目）の大きさで、旅団司令部や、コア部隊である第4普通科連隊など、第5旅団の主力部隊が所在し、道東の守りの中樞を担っていただいております。

自衛隊は、帯広の三大祭りである「おびひろ氷まつり」の雪像制作や、地域防災訓練の支援、各種行事での音楽隊の演奏等、様々な分野でご協力いただき、地域の安全や経済の発展など、帯広のまちづくりにとってなくてはならない存在であります。また、平成25年には「派遣隊員の留守家族支援に関する協定」の締結し、帯広駐屯地と帯広市はこれまで以上に協力関係を築き上げてまいりました。

今後につきましても、相互の連携を一層深め、共に発展して参りたいと存じます。



豊かに広がる十勝平野の農村風景

防衛施設と周辺地域との調和を図るために ～ 民生安定助成事業（防音助成）の紹介 ～

前号では障害防止対策事業についてご紹介しましたが、今号では民生安定助成事業（防音助成）において、平成25年度に大規模な改修工事等を実施した「島松公民館」をご紹介します。

恵庭市は、陸上自衛隊屈指の面積を有する北海道大演習場が市街地近郊に所在し、自衛隊の戦車や重火砲等による砲射撃訓練等が頻繁に実施され、これに起因する騒音（砲撃音）の影響が大きい地域にあります。

当局では、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づき、防衛施設の設置又は運用による音響の障害の緩和に資するため、生活環境施設又は事業経営の安定に寄与する施設（児童養護施設、養護老人ホーム、公民館等）の整備について、地方公共団体が必要な措置を採るときにその整備に要する費用の一部を補助（防音助成）しています。

※防音助成の詳細については、特別編集号「防衛北海道 P22（平成26年3月発行）」に掲載していますので、是非ご覧下さい。
参考：北海道防衛局ホームページ http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/kouhou/kouhou_special_1.pdf

【位置図】



砲撃等による影響



今回ご紹介する本公民館は、昭和57年度にこの防音助成で建設して以来約30年が経過し、施設の老朽化や利用人口の増加、利用形態の多様化による利用者のニーズやバリアフリー化など、利用者の要望に対応できない状況にあるとして、恵庭市より当局に防音機能復旧工事や改修工事の要望がなされました。

当局では、北海道大演習場の設置又は運用による音響の障害の緩和に資するため、防音機能が著しく低下した設備の機能復旧工事の助成を行うとともに、既存の施設の更なる有効活用を促進する観点から高齢者、身体障害者等が本公民館を円滑に利用できるようにするためのバリアフリー化などの改修工事の助成を行い、平成25年11月、本公民館はリニューアルオープンしました。

本公民館は、リニューアル後、地域交流の活動拠点として、地域住民の方々に積極的に活用していただいています。

当局では、防衛施設の安定的な使用には、地域住民の御理解と御協力が不可欠と認識しており、今後も防衛施設周辺の対策事業を積極的に助成していきます。



【恵庭市担当者の声】

本公民館は、市民の教養の向上、健康の増進等を図るため、島松地区に昭和57年度に旧札幌防衛施設局の補助事業により整備されました。

しかし、約30年が経過し、老朽化や防音機能の低下により、平成25年度に改めて北海道防衛局の補助を受け、大規模改修・防音機能復旧工事を実施しました。

リニューアル後は、地域交流の活動拠点として従前にも増して利用され、また、災害時の避難収容所に指定し、地域住民の生命を守る施設としても重要な位置づけになっています。

【主な利用者の声】

- 砲撃音も気にならなくなり、また、公民館で一番大きな集会室やロビーが明るくなり、とても気持ちよく利用できるようになりました。
- 今まで2階に上がるのに階段しかなく、高齢者には2階の部屋の利用が大変でしたが、エレベーターが設置され大変利用しやすくなりました。
- 多目的トイレが設置され、私たち高齢者にとっても安心して利用でき、また、駐車場からの入り口がスロープになったのも嬉しいです。

【主な利用状況】



（写真提供：恵庭市）

支局だより・事務所だより

○帯広防衛支局

～ 各種教育の実施について ～

帯広防衛支局では、帯広地方合同庁舎において、6月27日(金)「防衛省薬物乱用防止月間における教育」、7月31日(木)「コンプライアンスに関する意識の徹底、不適切な部下の指導及び自殺事故の防止並びに情報公開関係及び行政文書の管理の適正な実施のための措置の徹底についての教育」及び8月6日(水)「情報公開・個人情報保護の巡回教育」を実施しました。

「防衛省薬物乱用防止月間における教育」は、全職員に対し、薬物が心身に及ぼす影響や自身が被る社会的不利益について理解させ、薬物乱用に対する撲滅意識を高めるため、専門的知識を有する帯広警察署の佐々木警部を講師に招き、覚醒剤、アヘン、大麻及び脱法ハーブ等の薬物の説明及び薬物使用による問題点について説明がありました。

「コンプライアンス等についての教育」は、先般、護衛艦「たちかぜ」乗員であった1等海士の自殺事案の東京高等裁判所の判決において、暴行及び恐喝並びに上司職員らの指導監督義務違反、また、当該事案に関する情報公開請求に対する文書の特定において、隠匿した行為が違法である旨判示されたことを受け、防衛省として再発を防止するため、課長以下全職員が北海道防衛局総務課長より教育を受けました。

教育では、再発防止のため、高い使命感と倫理観を保持し、私的制裁の禁止及びメンタルヘルスに関する啓発の実施、行政文書の特定の重要性を再認識し、行政文書の管理の徹底を図ることが必要との説明がありました。

「情報公開・個人情報保護の巡回教育」は、情報公開・個人情報保護業務に携わる職員を対象に、より適切な業務処理、円滑化及び行政サービスの向上を図るため、防衛省情報公開・個人情報保護室先任部員より教育を受けました。

情報公開の教育では、行政文書の適切な管理、開示決定等業務での期限、開示・不開示の判断及び開示請求件数の推移等の説明、また、個人情報保護の教育では、保有個人情報の管理体制、制限及び保管並びに開示請求件数の推移と漏洩、紛失及び流出による罰則規定の説明がありました。

帯広防衛支局では、職員一人ひとりの法令の遵守、社会のルールから逸脱しない行動の意識向上を図るための各種教育を継続的に実施し、国民からの信頼の維持・向上に努めていきます。



薬物乱用防止教育を受ける職員



コンプライアンス等の教育を受ける職員



情報公開等教育を受ける職員

平成26年度北海道防衛局災害対処訓練実施

平成26年10月15日、北海道防衛局は、管内での大規模災害を想定して全職員参加による職員及び家族の安否情報の確認及び緊急登庁の訓練を実施しました。

訓練の内容は、全職員に対する地震発生情報の伝達、各人の安否情報の報告、地震の発生により交通機関が利用出来ない状況を想定しての徒歩による登庁、登庁後の迅速な対策本部の開設、非常用物品の確認など

です。また、本訓練終了後、昨年に引き続き、北海道防災会議（事務局：北海道）主催の北海道シェイクアウトに参加しました。

この訓練で、「緊急登庁時において各職員が携行する物等の再点検を勧めること」などについて再認識するとともに、当局における対処能力の向上及び防災意識の高揚を図りました。

当局としては、大規模災害の際に、迅速かつ適切に対応できるよう常日頃から備えていくこととしています。



北海道防衛局対策本部における訓練状況



北海道シェイクアウトへの参加

● 自衛隊帯広地方協力本部 ～帯広地本ゆるキャラ紹介～



「1日帯広地本長」



3匹トリオ

◎連絡先
 自衛隊帯広地方協力本部
 〒080-0024 北海道帯広市西14条南14丁目4番地 電話/FAX：0155-23-2485 (代)
 HP：http://www.mod.go.jp/pco/obihiro/ E-mail：hq1-obihiro@pco.mod.go.jp

自衛隊帯広地方協力本部キャラクター

2003年、帯広地本各課のキャラクターとしてイラスト作成。2013年、モチーフは、陸・海・空自衛隊を象徴し、道東（北海道東部）に生息する動物の中から、エゾシカ、オジロワシに、ゴマフアザラシを新規加入させ、陸上自衛隊のエゾシカ「びっきー」、海上自衛隊のゴマフアザラシ「ひマリン」、航空自衛隊のオジロワシ「ろっきー」の3匹が完成。

帯広で親しまれるように、キャッチコピー「**お**いら達、**び**っきー、**ひ**マリン、**ろ**っきー」の頭文字を続けると「**おびひろ**」となる。

3匹は陸・海・空の自衛隊をPRするだけではなく、地域に密着し道東全域を代表するキャラクターを目指しています。



中央音楽隊演奏会（帯広市）



艦艇広報で活躍（護衛艦「さざなみ」）



幼稚園児が自衛隊のお仕事体験!!

自衛隊帯広地方協力本部（本部長：山下和敏1等陸佐）は、9月28日（日）、帯広競馬場で実施された「十勝私立幼稚園連合父母の会」主催「それいけ！！おしごとキッズ」に参加し、自衛隊のPR活動を行いました。

この活動は、十勝管内の幼稚園児が親子で様々な職業体験をすることにより仕事の楽しさや、働くことの大切さを知り、日々働く親や地域への感謝の心、伝統や文化の理解を幼少期に育てることを目的としたイベントで、自衛隊帯広地方協力本部としては初参加となります。

帯広地本は、「キッズ自衛官」コーナーとして、「基本教練」における「気を付け」、「拳手の敬礼」、「直れ」、「休め」の4動作をお仕事として、園児達に分かりやすく丁寧に指導しました。初めて基本教練を体験した園児達は、敬礼動作を慣れないながらも一生懸命に行い、目を輝かせて楽しんでいる様子でした。

会場である帯広競馬場では、出展企業等15社、来場者約2,000名で一杯になり、また、「キッズ自衛官」コーナーでは約400名の園児がお仕事体験するなど人気があり途中からは入場制限が必要な場面もありました。この体験で、スタンプカードを手にした園児等は、各ブースを巡りながらお仕事を体験し、スタンプを集めカードが一杯になった園児らはそれぞれ参加賞のお菓子をもらい喜んでいました。

帯広地本はこれからも、積極的に各種イベントに参加し地域の皆様に自衛隊活動に対する理解の深化を図っていきます。



大人気の「キッズ自衛官」コーナー



かっいいい我が子をカメラに収める父母



一生懸命教わる園児達



平和を、仕事にする

平成26年度 自衛官等募集



募集種目	自衛官候補生（男子）	高等工科学校生徒	
		推 薦	一 般
陸上・海上・航空の各教育隊において自衛官として必要な基礎的教育訓練を受け、終了後「任期制自衛官」に任用されます。引き続き職務に必要な技術や資格を取得します。希望により選抜試験を経て、曹や幹部へ昇進します。	将来陸上自衛隊において、高機能化・システム化された装備品を駆使・運用するとともに、国際社会においても自信をもって対応できる自衛官となる者を養成します。生徒課程修了時（採用から3年後）には高等学校（通信制）の卒業資格を取得します。		
応募資格	18歳以上27歳未満の者	中学校等卒業（見込含む。）17歳未満、成績優秀かつ指導力に富み学校長が推薦できる男子	中学校等卒業（見込含む。）17歳未満の男子
受付期間	お近くの自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。	11月1日(土)～12月5日(金)	11月1日(土)～27年1月9日(金)
試験期日	札幌：12月19日(金)及び21日(日) 函館：12月13日(土)及び14日(日) 旭川：12月14日(日)及び15日(月) 帯広：12月13日(土)及び14日(日) ※採用予定数を採用した場合は、実施しない場合があります。	27年1月10日(土)～1月12日(月) ※いずれか1日が指定されます。	1次：27年1月24日(土) 2次：27年2月5日(木)～2月8日(日) ※いずれか1日が指定されます。
合格発表	試験終了後に通知されます。	27年1月23日(金)	1次：27年1月30日(金) 最終：27年2月20日(金)

◆他の種目や詳しい内容は最寄の自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。



札幌地方協力本部
011(631)5472



函館地方協力本部
0138(53)6241



旭川地方協力本部
0166(51)6060



帯広地方協力本部
0155(23)5882

◆募集コールセンター



守ろうみんなの国
0120-063792
年中無休受付時間 12時～20時



自衛官募集ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsdff/jieikanbosyu/>

自衛官募集 検索

自衛官募集携帯サイト



12～1月の道内自衛隊の主なイベント

開催日	開催場所	イベント名	お問合せ
12月 6日(土)	帯広市民文化ホール	第5音楽隊 ファミリーコンサート	第5旅団司令部広報班 0155-48-5121
12月 7日(日)	千歳市民文化センター 大ホール	千歳基地 クリスマスコンサート	第2航空団 監理部広報室 0123-23-3101
12月13日(土)	旭川市民文化会館 大ホール	第2音楽隊 第39回定期演奏会	第2師団司令部広報室 0166-51-6111
12月20日(土)	千歳市民文化センター 大ホール	千歳音楽まつり	第7師団司令部総務課 広報渉外班 0123-23-5131
1月24日(土)	札幌コンサートホール 「kitara」小ホール	第11音楽隊第17回室内楽演奏会	第11音楽隊総務係 011-581-3191
1月25日(日)	札幌コンサートホール 「kitara」大ホール	北部方面音楽隊 第73回定期演奏会	北部方面音楽隊 011-581-3191
1月31日(土)	旭川市民文化会館 大ホール	第2音楽隊 ウィンターコンサート	自衛隊旭川地方協力本部 0166-51-6055

お詫びと訂正

前号 (Vol.36) で「道場巡り」が掲載されている北海道防衛局ホームページのアドレスをお知らせしましたが誤りがありました。正しくは以下のとおりです。

◎ P8 北海道内の防衛施設「道場巡り」

(誤) 北海道防衛局ホームページ『広報誌』 <http://www.mod.go.jp/gsdff/nae/hosp/>

(正) 北海道防衛局ホームページ『広報誌』 <http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido>

読者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

北海道防衛局広報等編集委員会

